

重点課題 ◎「基礎・基本」定着状況調査 ◇全国学力・学習状況調査

◎「数と式」の「問題解決の構想と結果の振り返り」がもっとも低かった。(通過率20.5%)

◇分数を含む一元一次方程式を解くことができる。(通過率49.2%)
全体的に計算問題の正答率が全国と比べるとやや低い。

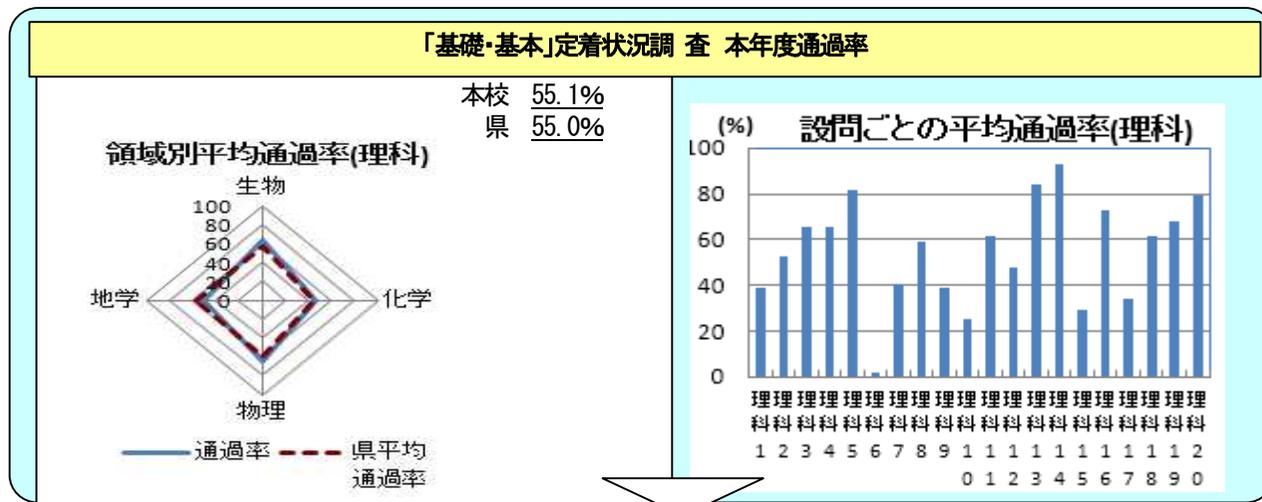
重点課題に対応した改善指導内容及び方法(授業)

◎問題文を正しく読み取ることから始める。何を問われているのか、何が分かればいいのかという見通しを持たせる。また、説明するときは条件に適した内容であるかという点をおさえる。反復練習により、課題解決への方法や視点を増やしていけるように取り組む。

◇これまで、プリントなどで計算方法を確認してきたが、通過率が半分に満たなかった。正確に解く力がまだまだ身につけていない生徒が多いことが分かった。今後も、週末プリントで計算を多く取り入れたり、授業のはじめに計算練習をしたりすることで、正確さを高めていけるように取り組む。

◎「基礎・基本」	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
学年・方法				1・2年生 後期中間テスト		1年生 H26「基礎・基本」	1・2年生 後期期末テスト
目標値				60.0%		50.0%	60.0%
実施後数値							

◇全国学力	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
学年・方法			3年生 後期中間テスト		2年生 H26「全国学力」	3年生 後期期末テスト	
目標値			55.0%		50.0%	55.0%	
実施後数値							



重点課題 ◎「基礎・基本」定着状況調査

◎① 地学の「火山灰の観察方法について」の通過率が 2.3 %と、他の設問と比較しても、また県とも比較しても、格段に低い。

◎② 化学の「温度計の示度の読み取り」の通過率が38.6%と県の通過率(51.4%)と比較して、大きく下回っている。

重点課題に対応した改善指導内容及び方法(授業)

◎① 地学領域を苦手としている生徒が多い。その結果正しい知識を理解できていないことが原因として挙げられる。これを解消するためには、生徒に図や映像資料を用いて、細かく説明を行い、視覚的に理解させていくようにしていきたい。また、実験内容がなぜ行っているのか理解できていない生徒も今回のような問題は難しく感じている可能性もある。そのため、実験時には、理由説明をしっかりと行わせられるようにしていきたい。

◎② 実験器具の使い方を理解している生徒は多いが、目盛を読み取ることを苦手としている。再度実験の中で復習を行いながら授業を進めていき、正しく理解させていく。

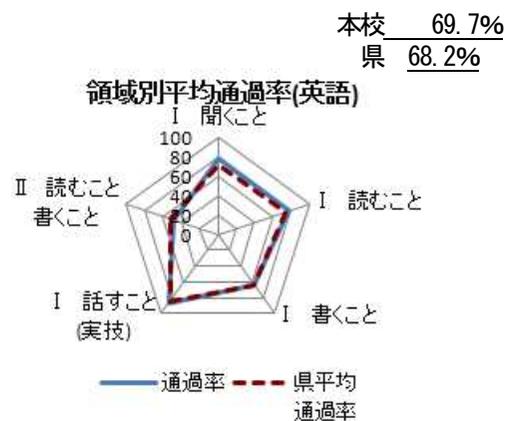
◎「基礎・基本」①	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
学年・方法				1・2年生 中間テスト			1・2年生 学年末テスト
目標値				60.0%			65.0%
実施後数値							

◎「基礎・基本」②	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
学年・方法				1・2年生 中間テスト		1年生 H26「基礎・基本」	1・2年生 学年末テスト
目標値				65.0%		50.0%	65.0%
実施後数値							

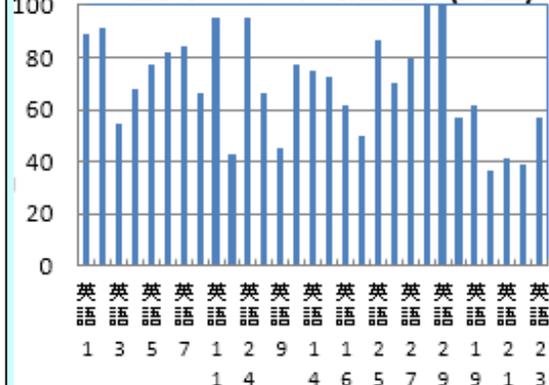
指導方法等の改善計画〔英語〕

広島市立己斐上中学校

「基礎・基本」定着状況調査 本年度通過率



(%) 設問ごとの平均通過率(英語)



重点課題 ◎「基礎・基本」定着状況調査

- ◎ タイプIはどの領域も県平均を越えているが、タイプIIの通過率は48.5%と県平均(51.8%)を下回っている。
中でも①「根拠を持って考えを伝える英文を書く。」(36.4%)
②適切な質問を考え英文を書く。(38.6%)
の二つが他の設問と比較しても、また県とも比較しても、通過率が低い。

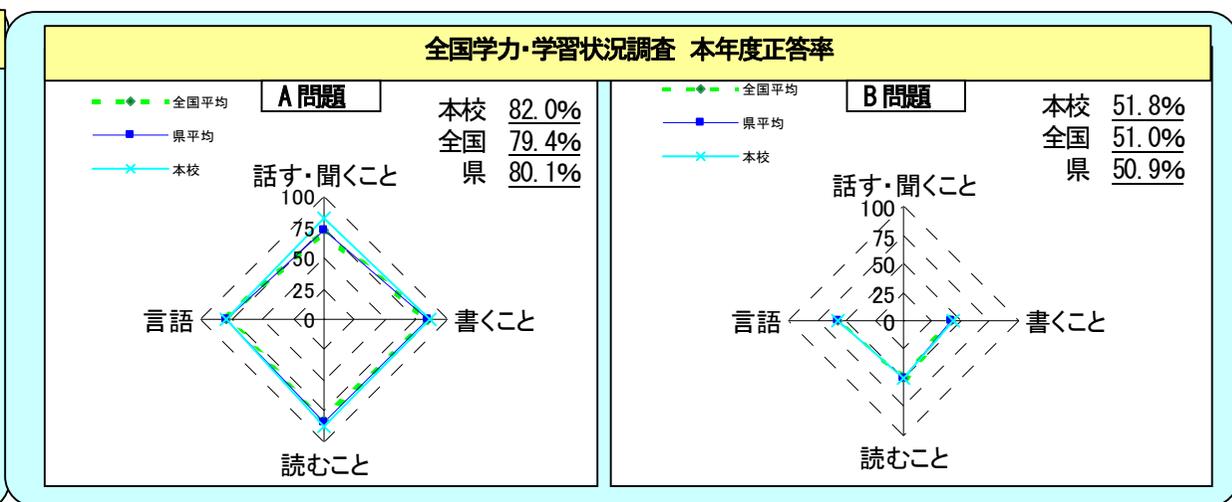
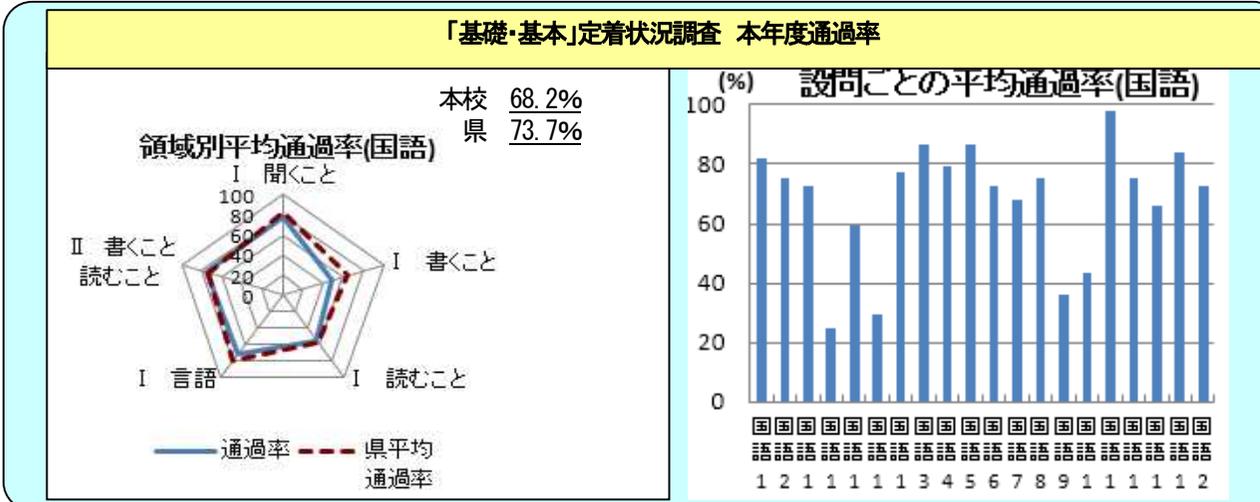
重点課題に対応した改善指導内容及び方法(授業)

- ◎① まず、自分の考えや感想を述べる対象となる話題(題材)について、正しい理解ができるよう基本的な語彙を増やし、英文の構造、特に主部・述部をきちんと捉える力をつける。文章を読み取る前には、動詞に印をつけて「誰(何)がどうする。」の基本構造を意識させたり、理解度のチェックには英語によるQ&Aを増やすなどする。また、自分の考えを伝える英文では、because や to 不定詞など目的や理由を付け加えるよう指導する。
- ◎② 上記①と同じく、話題・題材の内容を正しく理解する改善指導を行う。また、対話のモデルを示したペアワークはよく行っているが、自分達で新たな質問を加えて話題を深めていこうとする姿勢はまだ十分ではない。対話をうまくつなげたペアに発表させ、相手の話題に興味を持って質問を返そうとする前向きな態度を紹介する。

◎「基礎・基本」①	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
学年・方法				1・2年生 中間テスト			1・2年生 学年末テスト
目標値				60.0%			65.0%
実施後数値							

◎「基礎・基本」②	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
学年・方法				1・2年生 中間テスト		1年生 H26「基礎・基本」	1・2年生 学年末テスト
目標値				60.0%		50.0%	65.0%
実施後数値							

指導方法等の改善計画〔国語〕



重点課題 ◎「基礎・基本」定着状況調査 ◇全国学力・学習状況調査

◎「書くこと」における、「叙述の仕方の確認」が通過率 25.0%と低かった。また、「主語・述語の関係」（通過率 36.4%）も同様に低い通過率となった。述語に対する主語を捉え、補うことが難しかった。

◇主人公のうれしい気持ちを伝えるために書き換えるという設問では、正答率は低くないものの、県平均と比較すると、無回答率の高さが目立った。伝えたい事柄にふさわしい言葉に書き換えることが難しかった。

重点課題に対応した改善指導内容及び方法（授業）

◎まず、文の中の主語・述語の関係が捉えられていないので、「だれがどうした」「何がどうなる」を主軸とし、抜けている部分がないかの見直しや、抜けている部分を正しく補うといった習慣を身に付けられるように、授業の中の「書く」場面や「話す」場面でより一層取り組ませていく。また、意味を変えないで、「二文を一文に書き直す」「一文を二文に分けて書く」活動を意識的に取り入れていく。

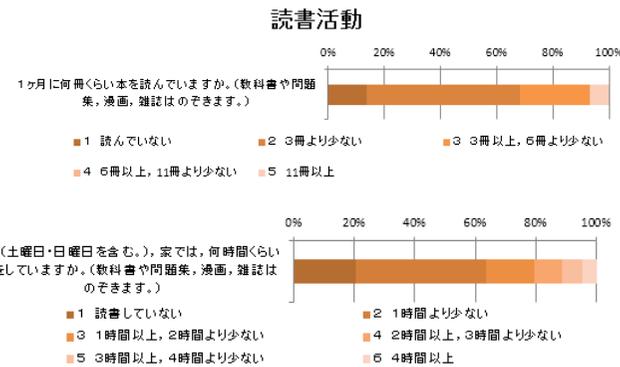
◇登場人物や自分の心情を相手に伝えるときに、「楽しい」「悲しい」といった直接的な表現のみを使うのではなく、その言動や情景の描写を通して表現したり、比喩を用いたりして、相手が心情を具体的に想像できるように工夫する活動を行っていく。また、様々な文章から、効果的な心情の描写を抜き出し、自身の表現の参考にさせていく。

◎「基礎・基本」	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
学年・方法			1・2年生 後期中間テスト	H26 1年生 「基礎・基本」	1・2年生 確認テスト	H26 2年生 「基礎・基本」	1・2年生 後期期末テスト
目標値			40%	45%	50%	55%	60%
実施後数値							

◇全国学力	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
学年・方法			3年生 後期中間テスト	H26 2年生 「全国」学力	3年生 確認テスト	3年生 後期期末テスト	2年生 後期期末テスト
目標値			40%	45%	45%	50%	60%
実施後数値							

質問紙調査（「基礎・基本」定着状況調査：生徒質問紙調査）（全国学力・学習状況調査：生徒質問紙調査）

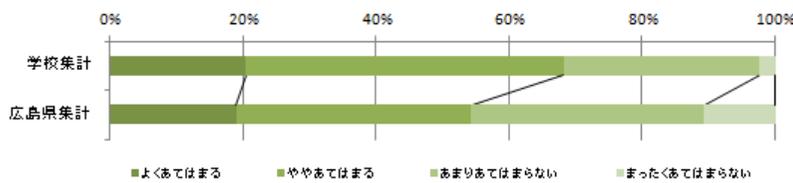
(1) 生活・学習



	生徒の回答についての課題(現状値)	今後の具体的な取組の内容	学年	目標値	検証方法	検証時期	実施数値	現状からの幅
基礎・基本	読書の冊数については読んでいないが13.6%、3冊未満が54.5%、また読書時間も、していない・1時間以下が合わせて63.5%である。	図書室を日常的に開放し読書の機会を学校内で増やすとともに、図書委員会を実効的に動かし、読書啓発活動を行う。	1	3冊以上を50%以上	生徒アンケート調査	1月		
全国	読書は好きですかの問いに対する回答で、あてはまらないが25.8%と全国の2倍近くある。	教科においても積極的に図書室を活用するとともに、国語科では教材に即して図書の紹介や、読書指導を行う。	2	あてはまるが70%以上	生徒アンケート調査	1月		

(2) 教科

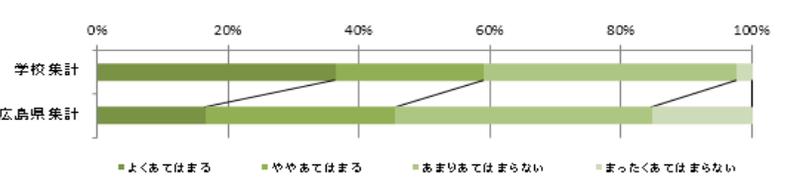
国語の授業の中で、学んだことの振り返りをしている。



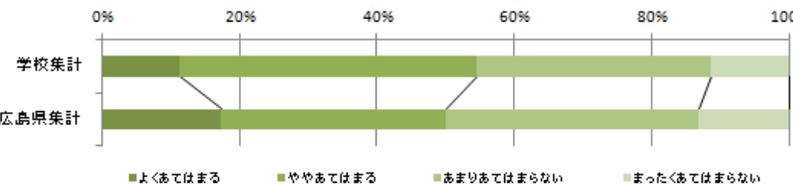
数学の授業では、自分の解き方や考え方の説明をノートに書いています。



理科の授業では、自分の考えをまわりの人に説明したり発表したりしています。



英語の授業では、聞いたり読んだりしたことについて、メモを取ったり、感想や意見を話したり書いたりしています。



	生徒の回答についての課題(現状値)	授業改善の方向性や具体的な取組	学年	目標値	検証方法	検証時期	実施数値	現状からの幅
国語	基礎・基本 国語の授業の中で、学んだことの振り返りをしている生徒の割合は68.2%と県平均よりも高いが、あてはまらない生徒が31.8%であった。	授業の始めに示すめあてに対し、そのめあてが達成されたのかどうかを、授業の最後に確認する。	2	あてはまるが75%以上	生徒アンケート調査	1月		
国語	全国 国語の授業で意見などを発表するとき、うまく伝わるように話の組み立てをあまり工夫できていない生徒の割合が28.8%である。	自分の意見や主張を相手に伝わるように、根拠や例を整理して述べるように指導する。その際、整理しやすいワークシートを準備するなどの工夫をする。	3	あてはまるが75%以上	生徒アンケート調査	1月		
数学	基礎・基本 自分の解き方や考え方の説明をノートにかくことに、あてはまる生徒が36.4%であった。	考えるための視点やかき方を伝え、反復練習させる。生徒が考えをかく時間を確保する。小グループなどで発表することを通して、自信をつけさせる。	2	あてはまるが60%以上	生徒アンケート調査	1月		
数学	全国 自分の解き方や考え方の説明をノートにかくことに、あてはまる生徒が54.2%であった。	考えるための視点やかき方を伝え、反復練習させる。生徒が考えをかく時間を確保する。小グループなどで発表することを通して、自信をつけさせる。	3	あてはまるが60%以上	生徒アンケート調査	1月		
理科	基礎・基本 理科の授業で自分の考えを説明したりすることができる生徒は59.1%となっている。	自分の意見を周りに説明する機会を増やしていくようにしていきたい。	2	あてはまるが70%以上	生徒アンケート調査	1月		
英語	基礎・基本 聞いたり読んだりしたことについて、メモを取ったり、感想や意見を話したり書いたりしている生徒が54.5%と、他の回答と比べて著しく低い。	聞いたり読んだりした内容について、理解度を計るに止まらず、感想や意見を求めるよう発問を工夫する。	2	よくあてはまるとややあてはまるが65%以上	生徒アンケート調査	1月		